

(別添4)

【七ヶ宿町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の内容等を踏まえ、ICTを活用して個別最適化された学習、協働的な学び、情報活用能力の育成、そしてデジタルリテラシーの向上を実現する。これにより、未来の社会で必要とされる能力を育み、子どもたちが自分らしく、そして力強く成長できる学びの場を提供することを目指す。

(1) 個別最適化された学びの実現

学習進度や理解度に応じた学習アプリやオンライン教材を使い、自分のペースで学習できる環境を整え、AIを活用した個別学習支援など、学びの幅を広げるためにICT端末を活用することで、子ども一人一人に最適な学びを提供する。

(2) 協働的な学びの促進

Google Classroomなどのツールを使って、グループワークやオンライン上での共同作業を行い、チームごとに情報を共有し意見を交換しながら課題に取り組むことにより、協力やコミュニケーション能力を育成し社会性を養う。

2. GIGA第1期の総括

本町では令和2年度に町立小中学校に対して、GIGAスクール構想に基づく1人1台のタブレット端末と、オンラインで利用できる環境を整備し、学校現場のICT化を早期に進めてきた。それと並行し、教育委員会と各校情報教育担当者で、よりスムーズな導入と活用のための担当者会を行い、児童生徒が日常の学校生活の中で端末を活用しながら学ぶための議論を重ねてきた。

その中で教員には、導入された端末を有効に活用することにより、児童生徒の主体的でかつ対話的で深い学びの実現と、情報活用能力の育成が求められたため、教育委員会としては、町立小中学校に勤務する教員の更なる教育ICT活用・推進を図ることを目的に、令和3年度より毎年、定期的なICT支援とスキルアップ・意欲向上を図る研修等の機会を創出してきた。その結果、端末を活用した授業が日常的に行われるようになり、デジタルドリル等を活用した学習など、様々な場面で1人1台端末が活用されるようになり、児童生徒の学習意欲の向上や学習環境の整備に繋がった。

しかし、ICT機器の活用は大きく進んだと言える一方、より効果的な利活用等については、教職員により差が見られるため、今後も継続して研修等を行い、各校のICT利活

用について情報共有・共通理解を図りながら課題を確認し、外部講師の支援を受けながらICT活用指導力の向上を目指していく。

3. 1人1台端末の利活用方策

次の取組を推進していくために、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していく。

(1) 1人1台端末の積極的活用

これまで継続してきた研修を引き続き行い、教員一人一人がNEXT GIGAでのICT活用の目的を理解し指導力の向上を図る。また、授業支援ソフトやAIドリル、デジタル教科書を活用し、児童生徒一人一人のニーズに応じた学習の実現を目指す。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

本町の各校では、各教科や総合的な学習の時間及び諸活動で、1人1台端末を積極的に活用し、自ら進んで課題を見つけ解決する課題解決能力の育成に取り組んでいる。1人1台端末の導入により、他者との合意形成や共同編集、遠隔地との交流等も容易に行えるようになったが、授業における個別最適・協働的な学びの一層の充実に向けては、教職員が単元計画に、生徒自身が理解度や進度に合わせながら情報収集、実験、個人やグループでの考察、発表等に取り組む場面を、意図的・効果的に設定した授業づくりが望まれる。

教育委員会としては、教職員がICT活用のメリットや方法について実感を伴った理解を深められるよう、日常の校務でのICTの利活用の促進、ワークショップ等の実践を重視した研修会の実施に積極的に取り組んでいく。

(3) 学びの保障

児童生徒の特性に応じたきめ細かな対応として、ICTの活用や、対面指導・遠隔・オンライン教育とのハイブリット化や、オンデマンド教材を活用した学び方を検討し指導の充実に努める。

また、外国籍の児童生徒や障害のある児童生徒など、特別な支援を要する児童生徒への学びの保障として、デジタル教科書やAIドリルが有効だと考える。これらのソフトウェアを十分に活用し、切れ目のない学びを保障していく。